

鹿本農業高等学校 令和4年度(2022年度)学校評価表

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	地域社会の期待と信頼を高める学校づくり	特色ある教育活動の実践及び情報発信	・農業高校の役割と使命をわかりやすく発信することにより、全学科合わせた募集定員の充足率50%以上を目標とする。	・地域の小中学生への学習支援や体験交流を実施するとともに、運営委員会を中心に効果的なPR方法や農業高校ならではの魅力を発信する。	A	コロナ禍もあり、交流等が難しい状況であったが、近隣中学校との情報交換や販売実習、地域行事を通じて学校PRに取り組んだ。「鹿農ジュニアクラブ」という小学生対象の体験講座を年間3回計画した。実施した講座は満足度が高かった。
	働き方改革の実践	長時間勤務の解消	・全職員が時間外勤務を月45時間以上しないようにする。 ・健康で働きやすい職場環境を整備する。	・グループをつくり、互いに声掛けを行うことで時間外勤務の縮減を図る。 ・年休等の休暇取得を推進する。	A	職員の時間外勤務は昨年度と比較して減少しており、改革の意識もさらに進んできている。一部の職員に業務が偏らないようにする必要がある。
	業務改善への取組	効率的・組織的な教育活動の実践	・ICTを活用した校務分掌業務及び会議や文書作成時間等を縮減し時間の有効活用等業務の効率化する。	・毎週水曜日は各会議日に設定し、情報を共有することによる業務の組織化を図る。 ・校務支援システムに各分掌のデータを全て保存し、全職員で業務を効率化する。	A	データの共有化は進んでおり、効率化ができています。また、クロームブックによるICT活用も進んでおり、リモート授業やアンケート実施及び資料等のペーパーレス化も進んでいる。
学力向上	基礎学力の向上	学習意欲の喚起と家庭学習の定着	・朝自習と朝読書による基礎学習に対する満足度を70%以上にする。	・各教科で提出物と添削指導を実施し、朝読書により基礎基本事項の定着を図る。	A	基礎学習に対する満足度については、保護者92%に対し、生徒72%で、目標に達した。

1 学校教育目標

時代の潮流に呼応した農業教育の実践校として、校訓「勤労・愛育・創造」の精神を基調に、確かな倫理観を持ち、協調性があり、心豊かで健やかな人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- 1 安全で安心な魅力ある学校づくり
 - 2 学習習慣の確立・わかる授業の実践と学力の向上
 - 3 キャリア教育の充実
 - 4 基本的生活習慣の確立
 - 5 生徒指導の徹底と生徒支援体制の確立
 - 6 人権教育の推進
 - 7 生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ及び部活動の活性化
- 教育スローガン 今日努力は夢への一歩 ～ 迷わず前へ！ ～

	学習支援体制の充実	・学業不適応による転学者・中退者数を0人にする。	・「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育を念頭にICT活用による分かる授業を心がける。 ・毎月の教科会、学科会において評価方法を検討し、生徒の向学心を高める。	B	授業では、必ず「目当て」と授業の流れを説明するような取り組みを行い、ICTの活用を併用しながら、「分かる授業」を心がけた。学力面での生徒異動はないが、転学者・中退者数は6名と昨年と変わらなかった。対人関係面で困り感を持った結果の生徒が見られたので、重点的に対策を行いたい。	
	授業力の向上	情報機器を用いた研究授業、公開授業の充実	・研究授業・公開授業(他校も含む)では、自分の教科と他教科を1回以上見学することにより、自らの授業実践に役立てる。	・毎月研究授業を行い、年2回の公開授業週間を設ける。 ・生徒による授業評価を実施し、客観的資料として活用する。	A	研究授業・公開授業継続的に実施することができた。生徒の学校評価アンケートでは、88%が「分かる授業を心がけている。」との回答しており、今後も取り組んでいきたい。
	読書活動の推進	朝の10分間読書や集団読書等の活動推進	・1人あたり、月1.5冊以上の本を読む(昨年度月1.29冊)。	・教務部図書班が中心となり出前図書館を行うなど啓発を行う。 ・授業で積極的に図書館を利用し、生徒が書物に触れる機会を増やす。	C	1か月の読書数については目標は達成できなかった。(月1.07冊)また、生徒の学校評価アンケートでも月1冊以上本を読む生徒は45%にとどまった。生徒の本離れが進んでおり、読書の啓発をより積極的に行う必要がある。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	与えられた場面に応じて発揮できる基礎力、協調性、応援力などの汎用的能力の育成	・効果的な外部講師による講話の実施と進路説明会への参加を通して企業理解や進路理解を進める。 ・各学期1回の講話や進路情報の提供により自己に適した職業選択をめざす。	・日頃の農業学習等により職業観や勤労観を高め先進地視察により社会を知りインターンシップや校外実習で実践力を身に付け、働く意義等を実感する。	A	外部講師講話は、厚生労働省委託事業や熊本県雇用環境整備協会、民間事業所等ではさんぼう、熊本市指定自立訓練・生活訓練事業所ネクストカレッジを活用して、今年度は対面型のみで実施することができた。2学年のインターンシップは今年度、全学科が同時期で実施することができた。1学年の先進地視察研修についても、全学科が同時期に2月実施予定である。
	卒業後の進路に活かす活動実践	将来を見通した進路意識の醸成と進路設計及び職業選択	・各学年の面談を適宜実施し、職業理解や情報収集の機会を増やすことで進路決定100%にする。 ・職場体験・見学の機会を増やし、就職内定後の面談を行うことで早期離職を防止する。	・外部講師による講話や外部人材による模擬面接などを実施することで、職業理解を進め早期離職の防止に取り組む。 ・キャリアパスポートの活用やオープンキャンパス等への参加を推奨する。	A	学期ごとに担任面談やキャリアサポーター・進路指導主事の面談、進路希望調査を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の中でも生徒のほぼ希望とおりに応募前職場見学を実施することができた。模擬面接も計画どおり実施できた。キャリアパスポートは、LHR等で活用し、上級学校オープンキャンパスや進学ガイダンス等で進学希望先の学びや進路について理解を深めさせることができた。

生徒指導	生活指導の徹底	基本的な生活習慣の確立	自ら率先して挨拶ができる生徒の育成。 ・時間を守り、無断遅刻・欠席をさせない。	・朝の声かけや日常指導で職員が積極的に挨拶の見本を示す。 ・登校指導を実施し一人一人声かけを行う。	A	自ら挨拶をする生徒の割合が増えた。登校指導も常時行っているが、毎日誰かが遅刻している状況にある。遅刻が続き改善が見られない生徒もあり、保護者と協力しながら、より一層の取り組みが必要である。
		制服の正しい着こなしの徹底	・外部機関との連携を図り正しい着こなしを学ぶ。	・全職員で指導を行い日常から正しい制服の着こなしを促す。	A	年度初めに、外部機関より講師を招き着こなし講座を実施した。全体的には良くなりつつあるが、正しい着こなしになっていない生徒もいる。日常的な生徒への声掛けを全職員で行っていく必要がある。校則見直しについても生徒会を中心に積極的に検討していきたい。
	適応指導の充実	中途退学者の減少	・中途退学者の割合を1%以下にする。	・入学前からの生徒情報収集・外部機関との連携と支援を充実する。 ・ケース会議等を定期的に行う。	B	入学後、SC面談やSSWの積極的活用により情報収集や支援方法を得た。今年度も中途退学者が見られるが、今後とも保護者と連携し、外部支援も含め、最適な支援を行っていきたい。
	組織的指導の推進	生徒理解と職員間の共通認識の向上	・指導を全職員で取り組み、職員間の指導差をなくす。	・生徒指導の情報共有を図り、全職員による指導体制を構築する。	B	職員と生徒の認識の差が大きい。個に応じた指導を心がけ、統一した基準での指導が必要である。生徒が校則を理解し、規範意識を持つことのできる指導を行い、より良い方向に進めたい。
人権教育の推進	人権教育の充実	種々の人権課題についての学習や部落差別解消、いじめ防止に向けた取組を行い、差別、いじめを許さない態度の育成	・人権教育HR活動や講話を通して、全ての生徒があらゆる差別やいじめは絶対いけないことだと認識する。	・学期1回の人権LHR活動や講話により、生徒及び職員の人権意識を高める ・人権教育推進委員会での現状把握及び職員研修を充実させる。	B	部落差別や就職差別、いじめ、ハンセン病、肢体不自由者の人権、LGBTQ、ハラスメントについてHR学習をした。また、部落差別について講話を行った。部落差別、いじめ、LGBTQについて職員研修の実施。保護者への周知や相談体制の充実が課題。
	特別支援教育の推進	インクルーシブ教育（授業のUD化と合理的配慮の促進）	・生徒理解の研修による支援が必要な生徒の理解。 ・支援に必要な生徒が教室で授業を受けやすい教室整備と授業のUD化を進める。	・教室環境の整備（整理整頓、週計画の見直しなど）や授業の工夫改善（授業のUD化やTT授業）。 ・SCやSSWと協力したケース会議を実施する。	B	4月の生徒理解研修（2回）に加え、前後期で個別の教育支援計画の見直しと共通理解を図った。必要に応じてSCや、SSWと連携しケース会議を行った。授業のUDを図り全クラス共通の黒板掲示と机椅子の消音ボールの設置に努めた。今後も知的障がい・発達障がいの感覚を知る職員研修を行い、より深い生徒理解に努めたい。

いじめの防止等	命を大切に する心を育 む指導	生命尊重の意 識と自尊感情 の確立	・すべての生徒が 自他の生命を尊 重し、認め合う 雰囲気作りを行 う。	・家庭訪問や面談 の充実。 ・朝のサポートタ イムでの声かけに よる全職員での雰 囲気作り。 ・心の絆を深める プログラムを実施 する。	A	全職員による登校指導やH R活動の実施。必要な生徒 への面談や家庭訪問、SC との面談ができています。不 安や悩みを感じている生徒 への対応はできています。課 題は、自己理解・他者理解 をはじめ、自己肯定感を高 める教育の実践が必要であ る。
	他者の心情 を理解する 人間性を育 む	いじめのない 人間関係の構 築と学校づく り	・いじめ早期発 見と全てのいじ め事案解決に努 める。 ・SNSのトラブル 防止に努める。	・学期1回「心の アンケート」調査 といじめ防止対策 委員会の実施によ り早期に発見し、 早期に対応する。	A	各学期の「心のアンケート」 や面談等による早期発見と 早期対応ができた。いじめ 防止対策委員会による防止 検討や集会における講話等 に注力した。SNS等も含め 保護者啓発の実践が必要 な。
地域連携 (コミュニ ティ・ス クールな ど)	学校運営協 議会の推進	学校運営協議 会における連 携体制の確立	・地域と学校の 連携及び、協働 体制をより組織 的・継続的なも のにし教育活動 を一層充実して いく。	・地域産業並びに 地域社会の担い手 の育成を目的に地 域との絆づくりと 活力あるコミュニ ティの形成により 地域とともにある 学校を目指す。	A	コロナ禍であったが、授業 参観を含めて計画のとおり 実施できた。委員から特色 ある教育内容や地域との交 流等について参考になる事 例や意見を頂くことができ た。
	地域連携と 広報活動の 推進	地域における 教育資源の活 用と交流活動 の推進	・地域交流を通 じた歴史や文化 の学習の深化。 ・幼・小・中学 校との交流や学 習支援活動や生 産物販売をと おした地域との 交流活動を推進 する。	・コロナ禍での感 染防止対策を行 いながら、学習支 援活動・学校行事 などの各種イベ ント及び生産物 移動販売等の地 域交流・地域貢 献活動を積極 的に行う。	B	コロナ禍における感染防止 対策を徹底した上で行事等 の地域交流に意欲的に取り 組んだ。文化祭では入場制 限するほどの多くの来校者 があり、「地域に必要とさ れる学校」を再認識でき た。また、第1回の来民門 前市への参加や小学生向け の体験講座を実施した。
		広報活動の充 実	・生徒、職員、 PTAが協力し て本校の広報活 動に取り組む。	・学校パンフレ ットやSNSを通 じて生徒及びPT Aの活動の様子 を発信する。 ・新聞、TV等 のマスメディア への情報提供を 強め、より広範 囲の人々を対 象とした広報 を行う。	A	ホームページやインスタ グラム、地域の広報誌など を通じて、生徒の活動の様 子をアピールできた。中 学生のインスタグラム利 用率が上昇していることを 考えると、今後さらに充 実させていく必要がある。 また食品加工部や郷土芸 能伝承部を初めとする生 徒たちの活動が新聞や テレビで紹介され、大 きなアピールとなった。
務専 門 教 育 (農	農業教育の 充実	魅力ある農業 教育の実践	・スマート農業 や新たな生産品 (生産技術)の 開発を行う。 ・地域交流学習 の実践と発信力 の強化。	・講師招聘や交 流学習等による 知識・技術・実 践力の向上と学 習効果を高め るとともに、さ らなる学校PR に繋げる。	B	成果は、野菜の温室管理シ ステムのモニター化ができた。 未来の技能士育成事業を 活用した、食品加工やフ ラワーアレンジメント、被 服等の専門講師による実 践的学習を行うことが できた。課題は学校PR であり、報道機関に 投込みしているが 取材が来ない状況 が多いことが課題 である。

	地域を担う人材育成の充実	就農者及び地域産業を担う人材の育成	・農業経営者及び地域産業と連携しながら、地域に根ざした教育活動の実践。	・地域人材や地域資源を教育活動に活用しながら、地域理解や産業を知る機会とする。	A	成果は、現場実習やインターンシップが実施できた。保育園3園・小学校1校・中学校1校との連携授業や農高プラザを開催でき、授業を通じた地域交流ができた。課題は、卒業後に就農に関わる進路者が出なかった。
	学校農業クラブ、学校家庭クラブの活性化	各種活動の充実、R5日本学校農業クラブ全国大会熊本大会意見発表会の準備、プレ大会の成功	・大会での成績向上並びにクラブ員としての意識を高める。 ・担当する6月の年次大会や8月の九州大会（プレ大会）を成功させる。	・生徒が自発的かつ主体的に活動できる指導体制を整え、クラブ組織を強化する。 ・役割の丁寧な説明と一人一役の責任を果たす。	B	成果は、学校農業クラブの県大会プロジェクト発表で優秀賞1本、農業鑑定競技で最優秀1、全国大会では農業鑑定競技会に3人が出場し食品の部と生活の部で3人が優秀賞であった。全国大会に向け、6月のリハ大会、8月の九州大会と成功させることができた。課題は、R5日本学校農業クラブ全国大会熊本大会意見発表会の準備として、6月のリハ大会と10月の本大会を成功させることと、選手として成果を残すことである。

<p>4 学校関係者評価</p>
<p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な学校経営を継続させるには、第一に生徒数の確保と考えます。その為に校長自ら地域の小中学校へ出向かれ、農業高校の役割を解りやすく発信し、農業の大切さと魅力を伝えておられる事、適切と思います。 ・アンケートの結果を見ると生徒の意識や取組と保護者、教師の取組と数値が高く、一体となった取組がなされていると感じます。 ・鹿農ジュニアクラブの開催や中学生体験入学の2回開催など、コロナ禍の中でも前向きに取り組まれており、評価は適切であると思います。 ・生徒募集では、厳しい状況にあるが、いろいろな面でよく取り組まれていると思う。生徒の力を伸ばすためにもまず働き方改革の実践等進めてほしい。教育スローガンが達成されるよう、少人数なりの良さを発揮できることが大切と考えます。 ・令和5年度の公立高校入試出願状況をみていますと、例年と変わらず熊本市内の高校に一極集中している傾向が続いているように思われます。近年の少子化傾向を如実に反映しているように見受けられます。校長先生以下一生懸命に生徒募集のために努力されているのが感じ取れますが、その努力が今年度は鹿本農高への志願者数の増加に結びついているように感じます。鹿本農高ではタブレットを使用したICT教育が盛んにおこなわれており、生徒自身もICTについては興味をもって取り組んでいるように思います。このまま増加傾向が継続することを望みません。 ・入試状況からも各科によって違いがあるものの、定員を下回る状況であり一定数の確保に向けた取り組みが見込まれると感じます。 <p>【学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎・基本学力の定着」への取り組みは毎年継続的に実践されていること、当然ながら適切と思います。ICT機器の授業もスキルアップされ、今後楽しみです。 ・本の貸出量が課題である。読書量の減についてはICT活用の進展の裏返しということです。もし既に行われていたら申し訳ないのですが、調べもの等を行う際にインターネットを用いた読書も含めることを提案します。 ・わかる授業の数値が生徒は好評価しており、日頃の先生の取組が個を大切に育てられていると感じます。 ・図書館の利用減が続き、読書数も低下しているが本を読むことで、読み解く力や推しはかる力などがつくと思うので良さをアピールしてほしい。ICT活用をしつつ分かる授業を工夫し、認めて伸ばすようお願いしたい。(厳しさも持ちつつ) ・生徒にも保護者にも理解が得られているようで安心しました。ここ数年先生方の努力が報われていないような気がしていて、大変残念な気持ちになっていましたが、やっと成果が表れていると思います。 ・基礎・基本、学力の定着に向けた取り組みは良いと思います。また生徒一人一人に応じた指導ができています点も評価致します。ICT機器を用いた授業推進においても今後一層の向上をお願いしたいです。

【キャリア教育（進路指導）】

- ・農高として、農業部門に進む人が今年度居なかった事が残念。タブレットやスマホを導入した農業変革も始まっている現況を、先生方も最新農業として知っておかれてもよいかと思えます。
- ・インターンシップは社会経験ができ、その後も有用と思えます。
- ・評価は適切であると思えますが、加えて申し上げるならば、外部講師として先進的な農業で活躍されている若い農業者などを加えていただければと思います。
- ・外部講師招聘、インターンシップの実施など、進路指導がよくなされているように思う。地域や保護者にとって進路決定がどれ位の割合なのかという事には、非常に関心のある点なので、今後も生徒の進路希望が実現するよう取り組んでいただきたい。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症についての大幅な規制緩和が行われ、できる限りの経済活動、学校教育などが行われるようになりました。そのことにより昨年までできなかったインターンシップや視察研修などが実施でき生徒たちにとっても実のある1年になったのではないかと思います。
- ・各専門分野に応じた就職状況にあることは良いと思えます、本校で学んだ知識や技術を活かして欲しいです。

【生徒指導】

- ・社会では、自分らしさ（個性）を保ちつつも、組織の中では協調性・責任感並びに相手の身に成れる思いやりの精神を持ち得た心豊かな人に育てて欲しい！
- ・遅刻する生徒の固定化をどうするか課題と思えます。
- ・全体的に落ち着いていると思えます。
- ・生徒の特性や考え方もあるので一概には言えませんが、継続して中途退学者の減少に向けて頑張っただけければと思います。
- ・指導範囲が多岐にわたるのでご苦労の多いことと思われる。特にスマホについては使い方しだいで依存したり、思わぬ事態に直面したりする事も考えられる。適切に使えるよう、PTAが協力してほしい。
- ・毎年、遅刻をする生徒は必ずいますね。やはり本人の自覚と保護者の協力が一番必要になりますね。
- ・多様化する生徒個に対しての実践は評価致します。基本的な生活習慣を身に付けさせる取り組みは今後も継続してお願いし、固定化している遅刻者の減少を期待します。
- ・部活動について、検討されている生徒数に合わせた見直しをお願いしたいです。

【人権教育・いじめ防止等】

- ・適切な教育、指導がなされていると思えます。保健室は身体的な人が行く所と思っていた私の世代ですが、心的な人が増えているのですね。せめてもの心を開いてくれる場と成る事願っています。
- ・今後も防止啓発活動に努めて頂きたい。
- ・人権教育のLHRの中にLGBTQ等、多様性を尊重する授業を取り入れていただきたい。
- ・生徒、保護者、教職員ともに評価も高く、しっかり対応されている様子が伺えます。
- ・各々の個性や家庭環境も違う生徒達が集まる中、人権教育の浸透には相当の時間が必要であり、特に保護者への啓発は必須でPTA総会等に講座等を組み込めないかと提案します。自己肯定感を持てる事が他者への思いやりにつながるものと考えます。
- ・いじめについては早期発見が大事ですね。早ければ早いほど痛みが早めに解消でき生徒にとっては本当にありがたい気持ちになります。職員の皆様が全力でいじめ防止に取り組んでおられる様子が見て取れます。
- ・特別支援教育・人権教育では様々な研修会や委員会を実施されていると評価致します。今後も引き続き実践されていくことをお願いします。

【地域連携・広報】

- ・ホームページやInstagram及び広報誌などを通して、アクセス数も増加傾向で良好と思えます。
- ・鹿農ジュニアクラブで行う体験講座は学校を知るきっかけとなりとても良いと思った。
- ・中学校に生徒が出向き、農業に関する話、そして花植えを一緒に行った。中学校としてはありがたかったです。中学生の励みにもなると思えます。
- ・学校経営の項目と同じです。HPやInstagramも頑張られています、それだけでなく来民門前市参加も含め、直接地域と接する活動を増やされており、評価に値すると思えます。
- ・ホームページ等を使い、情報公開するのは、農高の今を知ってもらうために大変効果的だと思います。保～小・中学校との連携する中で、生徒達自身も学ぶことが多いと思う。新聞等でもこの頃は他校の取り組みがよく掲載されているので、紙面の活用も是非続けてほしい。
- ・普通高校では得られない幼稚園児、小学生などとの交流があり本当に地域に根差した農業高校になっていると感じます。また、市役所のロータリー、八千代座ほかいろんな場所に生徒さんが育てた様々な季節の花々をプランターによって彩っていただいております、華やいだ雰囲気を醸し出しています。
- ・地元の小中学生との交流学习や各種イベントへの積極的な参加について評価します、今後も継続して行くことで生徒数の確保などへ繋がることを期待します。・タブレット端末の定着やホームページ・Instagram等での情報発信も活発に行われており、新聞等でも様々な活動記事も掲載され本校のPRに大きく貢献していると感じます。

【専門教育（農業・就農・農業クラブ活動）】

- ・それぞれの専門学科で、研究から加工、販売さらにインターンシップと幅広く組み込まれていて良いカリキュラムに成っていて良いと思った。

・地域貢献できる部分があると報道なども取材に来るのではないかと。

・就農に関わる進路者が出なかったのは残念でした。評価については適切であると思います。

・農業クラブの全国大会が熊本で開催されるこのまたとない機会に、いろいろな役割をこなすことで意識の高まる生徒が増え、各種競技に意欲を持って取り組む気持ちが強くなることを期待し、願います。教室での授業だけでなく、農場や実習などで自分の良さを発揮できるのが農高の魅力だと思います。

・日本学校農業クラブ全国大会（北陸大会）において農業鑑定競技会では食品の部、生活の部で優秀賞を受賞され日頃の努力の結果が実を結んだことだろうと思います。また今年度は全国大会が熊本県で開催される予定で、山鹿市では意見発表会が行われます。鹿本農高の生徒さんたちも6月のリハーサルから10月の本番まで大変ご苦労されることだと思いますが、きっとこのことが後々いい経験になって生きてくることだと思います。

・各科とも特色ある取り組みが行われていることが分かりました。農・家庭クラブ活動においてもプロジェクト発表での入賞や活動についての感謝状授与などの成果が見られます。本年度開催される農ク全国大会は熊本での開催でもあり、更なる飛躍を期待します。

【教育活動その他の学校運営の改善に向けた取り組み】

・少子化の中、令和5年度の入学者が増えたこと、朗報でした。これからの次世代農業の「スマートアグリ」が現場に登用しはじめた現在、農業の働き方も大きく様変わりします。ICT授業の先駆けが魅力ある教育現場として夢ふくらませて学ぼうとする生徒さん達を引き寄せられる農高造りを目指して頂きたい。

・生徒の多様性を尊重して、個に応じた育てていただいていることに感謝いたします。

・就農者の確保は私共も喫緊の課題だと認識しております。今後とも連携させていただければと思っております。

①スマート農業について、実際の導入現場を見たいとのことであればご案内は可能です。②今年は就農者はおられないとのことですが、次年度以降おられた際には、その地域の地域営農法人の紹介と面談などできたらと思います。

③4Hクラブとの交流の活性化ができませんでしょうか。

・鹿農ジュニアクラブ開催は楽しい、貴重な経験を小学生に提供できたと思います。続けるのは大変だろうと思うのですが、なるべく息の長い取り組みとなることを希望します。ジュニアだけでなく地域の「おじいちゃんの知恵袋・おばあちゃんの知恵袋」を借りることも核家族の多い生徒達にはいい出会いになるかもと思います。他の委員さんが日本の自給率の低さについて発信しておられましたが、折々にそういう事も是非取り上げて危機感と共に展望について語りあい、これからの農業を支える人材（卵）を育ててほしい

・今年度もコロナ禍の1年でしたが、規制は大幅に緩和され高校生活も通常授業に近いものになり、またインターシッピング、校外学習、技能体験学習、幼稚園児・小学生などとの交流の機会も増えてより農業高校の特性を生かした活動ができたのではないかと感じました。これより先さらに地域との交流など推し進め前進していかれることをお祈りいたします。

5 総合評価

1 学校教育目標

今年度は教育目標に加え、「今日の努力は夢への一歩～迷わず前へ～」を教育スローガンとして教育活動を実践した。その結果、生徒・保護者ともこれまでになく高い評価であった。さらに学校教育目標の周知徹底を図り、職員の意識を喚起するとともに、主体的・対話的で深い学びを支える学校づくりに取り組み、学校全体の魅力を高め、地域に必要とされる農業高校であり続けたい。

2 本年度の重点目標

学校評価やアンケート結果等による課題の把握に努め、全教科による研究授業・公開授業を実施するとともに、一人一台端末の活用により、ICTを効果的に取り入れた授業改善と授業力向上及び魅力ある教育活動の展開に組織的に取り組んだ。また、農業高校として特色ある教育活動を展開により地域との連携や積極的な情報発信をすることで、生徒の自己肯定感を高めるとともに「生きる力」の育成を図った。

3 自己評価総括

コロナ禍の状況ではあるが募集定員の充足を目標に体験入学を2回に増やした。また、「農業に親しんでもらう」「農業高校を知ってもらおう」ことを目標に小学生対象の体験講座「鹿農ジュニアクラブ」を始めた。初めての取り組みであったが口座によっては申し込み段階から混み合い、当日も参加した小学生と保護者に大変喜んでいただくなど好評であった。今年度はより一層のPRのために学校公式のInstagramの充実を図った。今後は本校の魅力をより感じられるような効果的な情報発信を目指したい。

働き方改革の取組では前年度に比較して時間外勤務が一人あたり月に約1時間少なくなっていると同時に、年間の休暇取得が15日以上になるよう取り組み、一人あたりの休暇取得の平均が12.6日となっている。

基礎学力の向上では、朝自習や朝読書は定着しているが、家庭での学習時間が不足しており、学力向上を実感できるまでには至っていない。個に応じた授業改善や宅習課題への効果的な取組を工夫し、学習意欲を高め基礎学力の向上を図りたい。

キャリア教育では、コロナ禍の状況ではあったが、各事業所等の協力のもと感染防止対策を徹底し、インターシッピングや現場実習を実施した。5日間に及ぶ経験は生徒にとって大変貴重なものとなった。今後は、早い時期にキャリア・プランニングを確立させるため、生徒・保護者へ情報提供をさらに充実させたい。

生徒指導では、全体的に遅刻・欠席者が増加傾向にあると同時に同じ生徒が同じ指導を受ける場面も多く、固定されつつあるので、家庭と連携しながら改善を図る必要がある。いじめ防止では、いじめ事案を数件確認した。日

頃の言語環境の丁寧な指導等校内での指導を徹底させるとともに、今後も外部専門機関と連携して未然防止や適切な対応に努めたい。

人権教育では、職員の人権意識を高めるための研修を定期的実施した。これらは、インクルーシブ教育やいじめ防止に役立ち、生徒理解と一人ひとりに応じた個別の支援に生かされた。校外研修では、オンラインでの参加が多くなったが、例年より多くの職員が参加することができた。

専門教育では、各学科の特色を生かしたプロジェクト学習等が地域の活性化や課題解決に役立てられている。今年度は日本学校農業クラブ全国大会の農業鑑定競技会で本校から出場した3人が優秀賞を受賞した。来年度も農業高校の魅力を生かした教育活動の充実を図り、学校の魅力を地域に発信することで生徒たちの自信につながる取組を実践していきたい。

6 次年度への課題・改善方策

引き続き募集定員の充足が大きな課題と考えられることから、次年度も熊本スーパーハイスクール指定校の「クリエイティブハイスクール」として地域や大学等と連携した教育活動を展開し、一人一台端末先行実践校特定推進校として学校教育全般において ICT の活用に取り組み、学校・地域・家庭が連携して生徒の社会自立へ向けた「生きる力」の育成を目指す。次年度への課題と改善方策については以下のとおりである。

1 校訓を基調とした教育活動の実践

- ・わかる授業、学ぶ楽しさを推進し基礎学力の定着に取り組み、学習習慣の確立と学力向上を図る。
- ・体験や進路情報を提示して、進路選択の幅を広げ、自己実現の指導を充実させ、キャリア教育を充実する。
- ・教育行動指針を踏まえ、生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、保護者との連携を密にし、生徒支援体制の充実を図る。
- ・言語環境を整え自他の命を大切にすることを育む指導により、人権教育の推進を図る。

2 特色ある農業教育の実践と情報発信

- ・特色ある農業学習を展開するとともに各学科の特性を生かした資格取得を奨励し、学習効果を高める。
- ・地域の幼小中学校との積極的な交流学習や SNS・新聞・TV、地域広報誌を活用して特色ある教育活動を発信する。

3 家庭学習の定着による基礎学力の向上

- ・各教科で生徒の習熟状況等を把握し、個に応じた宅習課題を工夫しながら個別指導に努める。

4 学校農業クラブ活動の活性化

- ・生徒の主体性を高めたプロジェクト学習に取り組み、各種大会での成績向上及び全国大会出場を目指す。
- ・プロジェクト学習の成果を地域の中学校等で積極的に発表し、活動意欲を高める。